専大スポーツ

No. 373

大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web（http://sensupo.web.fc2.com/）でも大会結果を配信しています

女子シングルス

安藤が初V

バックハンドでコーナーを狙う安藤

東京卓球選手権＝3月1～5日、渋谷区・東京体育館

安藤みなみ（商2・慶誠高）が女子シングルスで初優勝。男子シングルスでは郡山北斗（経営2・関西高）が3位入賞を果たし、表彰台に登った。

昨年はベスト16に終わり、「優勝したかった」と強い気持ちで今大会に臨んだ安藤。ストレート勝ちでベスト4進出を決めると準決勝でも早々に3ゲームを連取した。しかしここから9―11、10―12、8―11と続けてゲームを落とし、反対に王手をかけられた。

「ミスが出て焦りもあったが、開き直っていこうと思った」と、最終セットを接戦の末12―10で奪い、粘り勝ちを収めた。

決勝の温馨選手（日体大）戦は、打って変わって4―0でストレート勝ち。圧倒的な力を見せた。「王手をかけてから準決勝の試合展開を少し意識してしまったが、最後まで焦ることなく我慢できた」と話し、「大会を通して、丁寧なプレーができたと思う」と振り返った。

郡山は「1回勝てれば上出来だと思っていたので3位になれてうれしい。良いレシーブが打てたことが、勝利につながった。今後の自分にとって自信になる」と納得の表情をみせた。

（飛田翼・文3＝写真も）

男子単　郡山は3位

惜しくも準優勝

先発投手陣の活躍光る

関東地区大学準硬式野球選手権＝3月20～31日、八王子市・上柚木公園野球場ほか

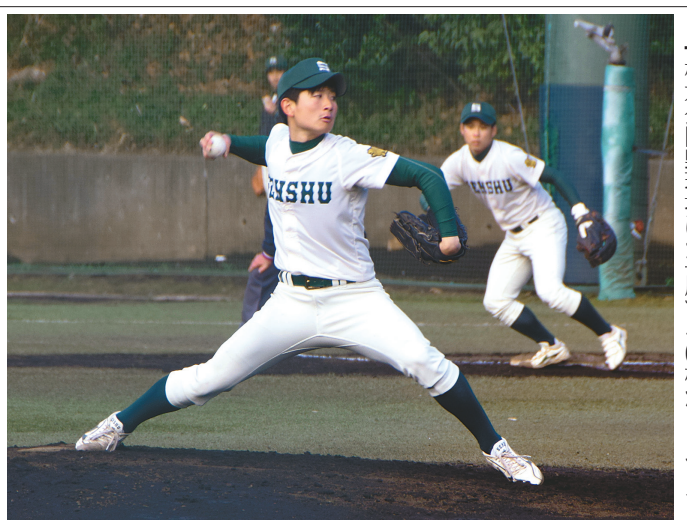
東都大学、東京六大学など関東の各リーグに所属する68校がトーナメントの頂点を目指したこの大会。昨年3位の専大は、接戦の末、0―3で中大に敗れたものの、準優勝で大会を終えた。この結果、全日本大学選手権、全日本大学選抜選手権の出場をかけて行われる6月の「全日本予選会」への出場が決定した。

昨秋の東都大学リーグ戦は投手陣の乱れもあり、最下位に終わった。しかし今大会は投手陣が奮起。初戦に先発した山口寛太（法1・金沢市工高）は5回無失点（試合は六回コールド勝ち）。2戦目は阿部拓磨（経営2・専大松戸高）が9回1失点で完投勝ちを収めた。準々決勝も山口、準決勝も阿部がともに完投し、抜群の安定感でチームを勝利に導いた。

打線では、五十嵐健（経済1・常総学院高）が全試合で4番に座り、2本のホームランを放つなど、主軸として活躍した。

主将として、捕手としてチームを牽引した神山琢郎（経営3・岐阜商高）は「準優勝は大きな自信になる。得たものを生かして、リーグ戦でも自分たちの野球を貫いていきたい」と振り返った。

（飛田＝写真も）



力投する山口＝準々決勝の法大Ⅱ部戦

開幕戦連敗

東都大学野球春季リーグ戦・開幕戦＝4月4、5日、新宿区・明治神宮野球場

4月4日に東都大学野球が開幕した。亜大との開幕カードで勝ち点を奪うことはできなかったが、今季の専大は攻撃力と台頭した新戦力を武器に2年ぶりの優勝を狙う。

1回戦は、先発の高橋礼（商4・専大松戸高）が要所を締めるピッチングでしのぐも、1―1で迎えた七回に連打を許して4失点。1―5で敗れ、開幕戦を勝利で飾ることができなかった。

2回戦は2―5とリードされた六回に和田裕生主将（経済4・福岡大大濠高）がレフトへソロホームランを放ち、反撃ののろしを上げる。1点差に詰め寄って迎えた九回表、大橋将（経営3・天理高）、火ノ浦明正（経済2・れいめい高）の連続ヒットでついに同点に追いついたが、サヨナラ負け（5―6）を喫した。

好スタートとはならなかったが、期待のアンダースロー投手、谷村拓哉（経営1・鹿児島実高）が開幕戦で登板。1回3分の2を自責点無しで抑えた。2回戦では3番を任された大庭樹也（経済1・明豊高）がいきなり2安打1打点を記録するなど、ルーキーたちが躍動した。

齋藤正直監督は「リーグ戦が進むにつれて選手たちはやってくれるはず。まだまだこれから」と語った。

（飛田＝写真も）

ホームランを放った和田（2回戦）

小野塚さん金メダル

フリースタイルスキー世界選手権　HP日本勢初

スキー部OGで2014年ソチ冬季五輪銅メダリストの小野塚彩那さん（平22商）＝写真＝が、3月にスペイン・シエラネバダで行われたフリースタイルスキーの世界選手権に出場。女子ハーフパイプ（HP）で日本勢初の金メダルを獲得した。

16日の予選を2位で通過すると、18日の決勝は2回目で89・80点をマーク。シーズン最終戦を優勝で締めくくった。

国際大会出場選手

◇卓球部
田添健汰（商4・希望が丘高）アジア選手権（4月9～16日、中国・無錫市）※日本代表
田添、郡山北斗、及川瑞基（商2・青森山田高）、安藤みなみ　ITTFツアー・韓国オープン（4月18～23日、韓国・仁川市）※日本代表

◇バスケットボール部
小笠原美奈（経営2・明星学園高）李相佰盃日韓競技大会（5月19～21日、大田区総合体育館）※日本女子学生選抜

◇フェンシング部
菊池小巻（商3・翔陽高）ワールドカップ・タウバービショフスハイム大会（4月28～30日、ドイツ）※フルーレ日本代表

【注】3月31日までの記事は、選手の学年を旧学年で表記しています。

体育会新入生セミナー開催

2017年度に体育会に入部する学生を対象とした新入生セミナーが3月25日、生田キャンパスで開催された。

学業と競技の両立を図るため、必要な知識を得ることを目的に毎年行われているこのセミナー。今回はスポーツ栄養に焦点を当て「カラダづくりと栄養について」と題して講演が行われ、朝食の重要性やたんぱく質摂取のコツなどが話された。

専スポ編集部員募集

専修大学体育会本部情宣局「専大スポーツ」編集部は、体育会の活動を取材し、その活躍を宣伝・広報する団体です。毎月発行される広報誌「ニュース専修」内の「専大スポーツ」の記事の執筆、年2回発行しているフリーペーパー「専Station」の製作などを行っています。

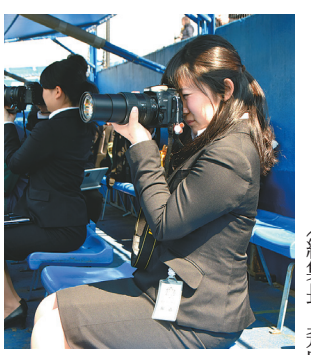
試合のある日は会場に足を運び、スポーツ紙の記者と並んで試合の経過や結果を記録し、カメラマン席に入って写真を撮り、試合後は選手や監督を直撃してインタビュー。こうして集めた情報と写真をもとに専大スポーツの記事を作成します。

部員の多くは「写真に興味がある」「スポーツが好き」「将来はマスコミ関係を目指したい」などの理由で入部しました。一緒に体育会を盛り上げましょう。みなさんの入部をお待ちしています。

部室は生田キャンパス第一学生自治会館2階、神田キャンパス地下2階。ホームページもぜひチェックしてください。

（編集長・飛田翼）

体育会を盛り上げよう



神宮球場でシャッターチャンスを狙う部員

専Station 第17号発行

3月11日に、私たちが企画、取材、紙面編集を行なっている「専Station」の17号を発行しました。今号は選手のインタビュー記事が充実。巻頭特集では、昨年度の全日本選手権で優勝を果たすなど、数々の大会で活躍している今注目のフェンシング部の菊池小巻（商3・翔陽高）にインタビュー。また、野球部を26年ぶりの優勝に導いた当時のエース、大野亨輔さん（平28商）や、今年度から藤島部屋に入門し、3月の春場所で白星を挙げた福山聖和さん（平29商）ら専大OBのインタビューも多数掲載しています。

キャンパス内のラックから、どなたでも自由に手に取ることができます。部員たちの熱意がこもった一冊をどうぞご覧ください。定期購読も随時受け付けています。詳しくはホームページをご覧ください。